

気候情報

2011年5月の日本の天候

- 全国的に降水量が多く、日照時間が少なかった
- 各地で平年よりかなり早い梅雨入り
- 月末に台風第2号などの影響により各地で大雨

5月の天気概況

低気圧や前線および台風の影響により、全国的に降水量が多く、日照時間が少なかった。特に、前線や台風の影響を多く受けた東日本太平洋側と西日本、沖縄・奄美では、1946年以降5月としては月降水量の多い方から第2位となった。また、沖縄・奄美では5月としては最も少ない月間日照時間を更新した。

上旬は、前線や低気圧の影響で曇りや雨の日が多かった。中旬は移動性高気圧に覆われ晴れの日が多かったが、下旬には太平洋高気圧の強まりにより、日本の南に前線が停滞して湿った空気の影響を受けることが多くなり、九州南部（23日ごろ）、四国地方、中国地方、近畿地方（26日ごろ）、東海地方、関東甲信地方（27日ごろ）では平年よりかなり早く梅雨入りした（速報値）。また、月末の27日から30日にかけて、日本の南に停滞する梅雨前線と台風第2号の影響により北海道を除く全国各地で大雨となり、福井県など記録的な大雨となったところもあった。

上旬：気圧の谷が次々に通過したため天気は短い周期で変化し、全国的に低気圧や前線の影響を受けることが多く、曇りや雨の日が多かった。寒気を伴った低気圧の影響により、北日本では低温となり、日本海側を中心に降水量が多かった。一方、西日本では後半に暖かい空気が流れ込んだため、気温が高かった。

中旬：全国的にはじめは気圧の谷や台風第1号の影響によりまとまった雨となった。その後は東日本、西日本では上空の寒気の影響などで天気の崩れた日もあったが、高気圧に覆われて晴れた日が多かった。北日本では北海道を中心に、次々と通過する気圧の谷により天気は短い周期で変化した。沖縄・奄美では、梅雨前線の影響を受けて曇りや雨の日が多かった。

下旬：低気圧や前線の影響により曇りや雨の日が多かった。前線が日本の南に停滞して、湿った空気の影響を受けることが多くなり、九州南部（23日ごろ）、四国地方、中国地方、近畿地方（26日ごろ）および東海地方、関東甲信地方（27日ごろ）では平年よりかなり早く梅雨入りした（速報値）。また、月末の27日から30日にかけて、梅雨前線と台風第2号およびこれから変わった低気圧の影響により北海道を除く全国各地

で大雨となった。上空の寒気の影響も加わり、福井県など記録的な大雨となったところもあった。

5月の気候統計

月平均気温：北海道地方と沖縄・奄美で低く、特に北海道地方では平年を1℃以上下回ったところが多かった。東北地方、東日本、西日本では平年並であった。

月降水量：東日本、西日本、沖縄・奄美ではかなり多く、北日本で多かった。新庄（山形県）、名古屋（愛知県）、京都、宮古島（沖縄県）など全国22地点で5月の降水量の最大値を更新した。

月間日照時間：全国で少なく、特に、北日本日本海側、西日本日本海側、沖縄・奄美でかなり少なかった。沖永良部（鹿児島県）、那覇、名護、久米島（以上、沖縄県）の4地点で5月の月間日照時間の最小値を更新した。

（気象庁観測部統計室）

5月の記録（1位更新のみ）

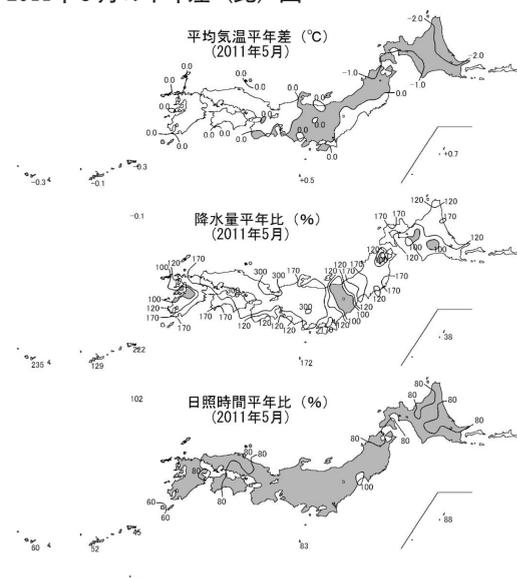
・月降水量多い方から（mm）

新庄 206.5 名古屋 330.5 京都 415.0
宮古島 529.5 など22地点

・月間日照時間少ない方から（時間）

沖永良部 61.7 那覇 75.7 名護 60.9
久米島 67.8

2011年5月の平年差（比）図



注) 陰影の部分は、平年より低い（少ない）地域を示す。